

『私の暮らしの中』

宮代町立百間中学校 3年 関根 教加

母は3年前からパートに出ている。曜日は決まっておらず、昼の5時から夜9時まで。日には扶養から外れないように調整しているらしい。レジ打ちや品出しなどの仕事があり、家でも大量のタバコの銘柄の暗記をしている。

母に時給を聞いたら1028円と答えられた。扶養の金額を調べてみると、103万円と書かれていた。この金額を上回ると扶養から外れてしまう。母は心配していたが103万円なんて簡単に貯まるだろうかと気になり、計算してみたら母は8ヶ月で100万円近く稼げると判明した。

前の段落に書いているように、母と姉と私は父の扶養に入っている。人数が多いと大変じゃないのかという疑問が生まれたがそんなことはなかった。扶養控除が適用され、むしろ人数が多いほど所得税の額は下げられるらしい。他にも、病院で保険証を提示すれば3割の医療費の自己負担で治療を受けることができ、残りの7割は健康保険組合が負担してくれる。被扶養者の場合も2割・3割の医療費を窓口で支払えばいい。風邪を引いて母に病院に連れられた時に言われた

「こんな気軽に病院に行けるのは税金のおかげなんだよ。」
という言葉の意味を理解できた気がする。

学校の校舎や体育施設の建設費、無償配布される教科書の費用に税金が使われている。税金は年金や介護の社会保障、警察や消防、快適な暮らしのためのごみ処理、道路や橋などの公共施設やサービスに形を変えて私達の生活を支えているのだ。これらの税金の使い道を踏まえて、税金がなくなるとどんな世界になるか。日本では犯罪が絶え間なく起こり、道路はひび割れ、町にごみがあふれかえるということになりかねない。そうすると困るのは私達自身である。こんな世界にしない為にはやはり税金が必要である。

この作文を書くにあたって調べたことから、税金は生活に欠かせない存在だと初めてその重要性を知ることができた。ならば、税金が身近なものに使われていることを多くの人に知ってもらえればいいとも感じた。私にできることとして、公共物に税金が使われているのなら長持ちするように大事に使えばいいのではないかと考えた。

税金を払うことで自分達の為になると考える人が増えていけばいいと思う。